

## 「干潟の表在生物」調査の意味

三番瀬の調査は、元データは膨大にあるが解析と考察が不足している。  
県民や行政など多くの人が取り組める調査や解析の例を挙げる。

※干潟の底質、微地形と、カニの種類が対応している。⇒カニの種類が環境指標  
※市民調査や一般の方の目視観察結果と対応可能⇒多くの人が見守る三番瀬の環境

### ①資料の表の整理例 (資料2-1 P15 図8)

	砂(+泥)	砂	泥(+貝)	泥	砂(+泥)	泥(+)
	201(I)	202(II)	26(9-4)	補-1	補-8	補-2
コメツキガニ	1	3				
ヤマトオサガニ			2	17		3
マメコブシガニ			1		2	1
アナジャコ			1904	242	488	432

### ②各測点の写真

- ・底質の砂と泥の混合具合、干潟表面の微地形
- ・調査時のアルバムから代表写真をえらぶ。

### ③調査地のplot

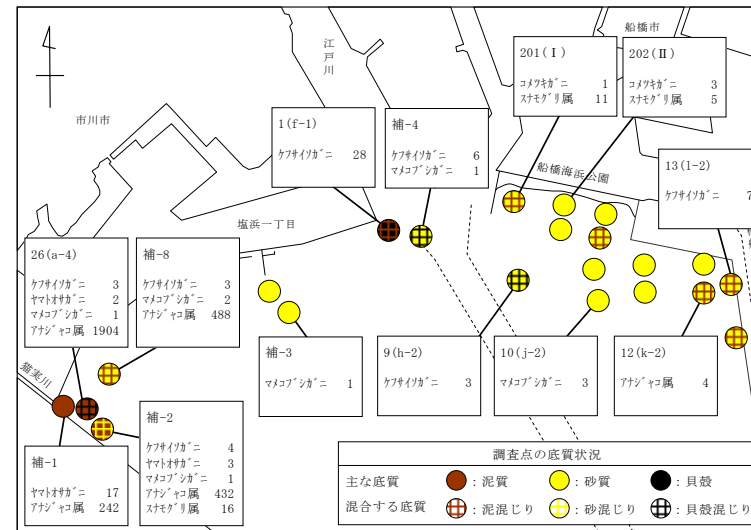
- ・最新の空撮に調査地点をプロット→県環境センター所有の空撮画像が有用
- ・空撮から干潟の微地形判読が行える。

### ④「三番瀬データベース」から、生物の特徴や写真を引用して既存の情報も活用。

- ・県の自然保護課、再生推進室と検討中

### ⑤市民調査や県民の目視観察結果と照応

※本事例など、試行的に着手している。今後、再生目標生物調査などにも活用していきたい。



注) 1. 出現種の数値は、コードシート(2.5m×2.5m)内に出現した個体数を示す。  
2. 各調査点の底質状況は、色分け及び格子掛けにより図示される。  
(例) ⊕...貝殻混じり泥

干潟の標高が少し高い場所：  
アシハラガニ



© SEINO Lab.

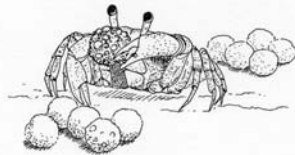
砂泥：チゴガニ



※白っぽい殻を  
上げ下げする  
“ダンス”  
が特徴的

© SEINO Lab.

砂泥：  
コメツキガニ



※“砂団子”づくりが  
特徴的

© SEINO Lab.

泥：  
ヤマトオサガニ(左)とオサガニ(右)



※巣穴の特徴  
穴から干潟に、どぼっと泥を撒く。



© SEINO Lab.